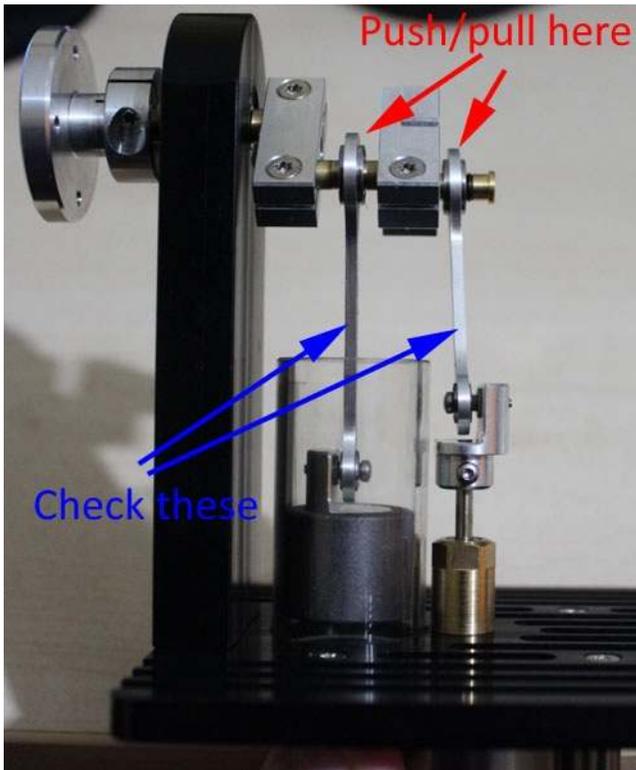


ストーブファン 故障対策

- 1) メーカー側では出荷前に実際過熱し、動きの検査を行い、完全物を出荷しています。
- 2) しかし、輸送中の不慮の荷動きは誰にもわからないので、もし、回転しない場合や、回転が不自然の場合、以下を参照し、修正する方法で、元の機能に戻る場合が殆どです。



例 A

もし過去に貴方の薪ストーブで充分作動していた場合、そのストーブの温度は十分であると考えます。しかし初めてストーブファンを置いて作動しない場合、ストーブ温度が回転域に到達しているか正確に温度測定を行ってください。温度計の中には不正確な物も存在しエラーが 30 度域になる物もありますのでご注意ください。

例 B ・写真参照

(ファンを室温に冷却し安全確保後)

赤矢印辺りを軽く軽く押したり引いたりして、動きがスムーズか検査します。もしかすると、何らかの衝撃で、回転位置が変化したかもしれません。

軽く軽く触り、スムーズに位置しているか確認して下さい。

その次に二本の縦の連結棒(青矢印の先)を検査してください。**二本は完全に平行で垂直でなければなりません。**この辺りの曲がりにより、回転が阻止されます。ストーブファンは極僅かな暖められた空気運動で引き起こされ、連結棒の精度が非常に重要です。その修正作業では、先ずファンを室温に戻します。水平を有する机の上に置き、ファン全体を、全方向から目視で、平行度と垂直性を検査。**例 A**も検査。もし少しずれている場合、連結棒の上側を指で軽く修正し、垂直性、水平性を確保します。写真では右側の連結棒が曲がっていますので修正が必要です。

メーカーの経験では、動かないとクレームの出たほとんどの原因は、ファンを移動させるとき、不用意に連結棒に触れ、その変形が原因ですが、空気エネルギーを利用する為、これ以上強固な連結棒を使えないので、可動部には触らないでください。